

令和 元 年度
いしかわこどもの未来創造まちづくり事業

活動報告書

自然（植物学）×伝統工芸（加賀友禅）×木育
「研究者から学ぶ紅葉の不思議と
加賀五彩の色の不思議を体験する」

特定非営利活動法人 角間里山みらい

1. 事業概要

加賀友禪の工程は、青花（ツユクサの染料）で下絵を写し、加賀友禪の特徴でもある、もち糊（米）で糸目糊を置いていきます。豆汁（大豆）で糊を生地に浸透させ、ぼかしや虫食いなどの技法で染色をほどこし、さらにもち糊や木の粉をかぶせて、地色を染めます。

「自然をモチーフにしている加賀友禪は、自然のものでつくられている。」

この、実は当たり前でもあることを私たちは知りません。

そこで当法人が行う活動の「木育」、石川県立自然史資料館の専門的な「自然学習」に、石川県の伝統工芸「加賀友禪」をコラボした企画を行うことで、子どもたちに、石川県の自然史や伝統文化に興味や関心を持つ、さらには木でつくられたおもちゃなどで木に触れて木に親しむ機会を提供します。

様々な視点から広く「自然」について考えることで、子どもたちの心を豊かに育むきっかけづくりとしたいと考えています。

2. 活動目的

伝統工芸も木育も自然とつながっている。

自然史を専門としている研究者から学ぶことで自然学習への関心、自然のものを使い自然をモチーフにした伝統文化へも関心を持ってもらいたい。身近な自然を観察すること、木や森、ものづくりに興味を持つことなど、これから広がる子どもたちの未来と豊かな成長に貢献したい。



3. 開催記録

イベントタイトル：

「秋の葉っぱ お話しと染めもの体験」

植物学専門の研究者（石川県立自然史資料館副館長）から紅葉のしくみを聞き、紅葉の葉っぱをモチーフにした型をつかって、加賀友禪の五色をイメージした五色を基本に親子でそれぞれに思い思いの色を重ねて1枚の手ぬぐいを染めていきます。

- 開催日 令和元年11月30日(土) 10:30 ~ 12:00
- 会場 石川県立自然史資料館 2Fコミュニケーションホール
- 主催 特定非営利活動法人 角間里山みらい
- 共催 石川県立自然史資料館
- 協力 茜やアーカイブギャラリー (奥田染色)
- 参加者 年中: 1名、年長: 4名、小学生: 8名、保護者: 9名、関係者: 4名

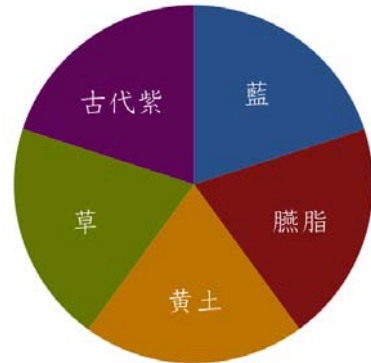
時間	内容
10:30	<p>(1) 開会</p> <p>・石川県立自然史資料館 副館長(植物学) 中野真理子氏</p> <p>「葉っぱのお話し」(抜粋)</p> <div data-bbox="454 721 1066 1064" data-label="Image"> </div> <p>寒くなり日照が不足して光合成で得られるエネルギーが減ると落葉の準備が始まります。クロロフィルが減り、もともとあったカロチノイドが目立つと黄色に、その後アントシアニンが増え、赤く紅葉し、最後は茶色になります。</p> <div data-bbox="454 1272 1066 1615" data-label="Image"> </div> <p>葉っぱには黄色くなるもの、赤くなるものもありますが、同じ種類でも、多様な色の変化があります。</p> <div data-bbox="454 1637 1066 2007" data-label="Image"> </div> <p>紅葉した葉っぱも会場で観察しました。 ※今回の型染めの葉っぱの型は、金沢市周辺で見られる紅葉が美しいものを9種類選んで使用しました。</p>

10:40

・茜やアーカイブギャラリー（奥田染色）奥田和子氏

「加賀友禪の色の不思議のお話し」

加賀友禪には、加賀五彩と言われる落ち着いた色合いの基本色があり、染色の職人が絶妙な割合で混ぜ合わせオリジナル色を作って彩色します。そのため同じものがない一点物の着物を作ることができます。



職人さんは、着物ごとに、各々の色見本を作り染色します。



例えば、同じような緑でも多様な緑を使い分けて美しい模様を描いています。

10:50

(2) 染色体験

紅葉や加賀友禪五彩の話を踏まえて、それぞれの親子で自由な染色をしました。


染色中のようす。皆さん集中して染めています。



12:00~

染色完成。楽しかった！という笑顔で撮影。



	 <p>体験は年長以上に限ったため、お子さん1名は用意したミニ木育広場で遊びながら待ちました。当日、木育広場は金沢大学の木育が卒論テーマの学生さんをお願いしました。</p> 
12:30	完成順に写真撮影し、順次解散。

4. 事業の成果

緑の葉が黄色や赤に変わるわけ、加賀友禅の色は単色を重ねたり混ぜたりして思い思いの色を作っていること、型染めという技法を知ることなど、いつもとちょっと違う学びや体験を通して、子どもたちの興味や関心、親子で体験することでのコミュニケーションや思い出の共有が、未来を創る子どもたちの心を豊かにできたのではないかと思います。

5. 参加者の声（感想・意見など）

- ・ 染物が好きなので体験に申し込んだ。
- ・ 体験が好きなので年齢が小さいが1人1枚ずつ体験させたい。
- ・ 出したい色にするためにはどうしたらいいか、いろいろ試した。
- ・ 顔料がにじまないように染めるのは、最初は難しかった。
- ・ きれいな作品ができた。
- ・ また体験したい。
- ・ 時間が足りなかった。

6. 課題

課題は継続。

石川県立自然史資料館には、植物学のほかにも、動物学と地学の専門分野があるので、引き続き、自然史資料館の協力を得ることができれば、学術的な自然史と伝統工芸を結び、子どもたちに伝えていけるよう継続した息の長い活動にしていきたいと考えている。

7. 今後の活動予定

石川県立自然史資料館が行うオープンミュージアムのプログラムに企画提出したいと考えている。

8. おわりに

「自然×伝統工芸×木育」というテーマをあらためて考えると、実はどれもすべてもともとは自然です。生物多様性やSDGsの取組みで、自然をふくめた様々な未来をより自分事として考える機会も増えていきます。植物学、動物学、地学が、そして伝統工芸が、考えるきっかけになるような企画を作り出していければと思います。